

令和 6 年度第 1 回名取市下水道建設委員会会議録

会 議 の 名 称	令和 6 年度第 1 回名取市下水道建設委員会
日 時	令和 7 年 1 月 30 日（木）午後 2 時 30 分～4 時 00 分
場 所	名取市役所 6 階第 2 会議室
出席委員	森良二（会長）、洞口祐一（職務代理）、黒田正志、三浦妙子、山司正男、 今野修、石川明美、大友正之、大友克志、阿部文男、川村恒夫、松田栄助
欠 席 者	なし
事 務 局	建設部長 村上諭 建設部次長兼下水道課長 大友博明、課長補佐 新妻里恵、 技術補佐兼建設係長 伊藤博紀、主幹兼下水道総務係長 佐々木輝、 技術主幹兼排水設備係長 鈴木達朗、下水道総務係 永谷智世、 建設係 岡田和駿 記録者：建設部下水道課建設係 技師 岡田 和駿
公 開 ・ 非公開の別	公開
傍聴人の数	0 人

<内 容>

○委嘱状交付式

- （１）開 会
- （２）委嘱状交付
 - ・市長より委嘱状交付（任期は令和 8 年 9 月 30 日まで）。
- （３）閉会

○下水道建設委員会

- （１）開会
 - ・事務局より会議が成立する旨を報告。
- （２）市長あいさつ

本日は大変お忙しい中お集まりをいただきありがとうございます。また、日頃より本市の下水道事業に対して、ご理解ご協力いただいておりますことを厚く御礼申し上げます。

本市の公共下水道事業につきましては、昭和 51 年に着手してから 40 年にわたり工事等進めてまいりましたが、令和 2 年度で完了したところでございます。令和 5 年度末における本市の公共下水道の普及率は 93.4%で、全国平均の 81%、宮城平均の 83%を大きく上回っており、皆様のご協力のもと着実に整備が行われてきた結果と捉えているところであります。

一方で、管路設備の老朽化等に伴う維持管理等について、今後の負担が増加することが見込まれておりまして、いかに適正に維持管理等を行っていくか課題となっている状況でございます。

また、雨水事業につきまして今年度から美田園地区の浸水対策として、調整池の改築工事に着手しています。小山館腰地区では、第1中学校のサブグラウンドの地下に貯留槽を築造する工事についても、設計等これから入っていくというような状況でございます。

また汚水事業のうち、農業集落排水事業について現在大曲地区のみですが、今後の維持管理費、更新費用の軽減等を図るために、令和6年度末に公共下水道へ統合することとしております。

いずれ本市下水道の状況を皆様にご理解いただき、整備事業や下水道経営に対する諸問題につきまして、ぜひそれぞれの立場からご意見等賜れば幸いです。

以上、申し上げまして開会にあたっての挨拶といたします。

～市長退席～

～事務局職員紹介～

(3) 会長あいさつ

本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には、本日のこの会議の運営につきまして、方針等ご協力をいただきながら取り進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

当委員会は、市長の諮問に応じて下水道建設計画の調整と実施促進につきまして必要な調査及び審議を行うために設置されている委員会でございます。また、事業の実施状況などについて説明を受けております。

本日の委員会につきましては、報告事項が2件ございます。

私たちの生活に欠かすことの出来ない下水道事業ではありますが、事業内容など理解し難い部分や、周知徹底が届いていない状況もあろうかと思われれます。そのような点につきましても、ご遠慮なくご質問いただければと思いますのでよろしくお願いします。

以上を持ちまして挨拶とさせていただきます。

(4) 会長職務代行者の氏名

- ・会長の指名により、2番洞口祐一委員に決定した。

(5) 議事録署名委員の指名

- ・会長の指名により、7番石川明美委員と9番大友克志委員に決定した。

(事務局から、会議は情報公開の対象となること、会議録は要点筆記作成となることを説明した)

(6) 議事

報告第1号「名取市下水道事業の概要について」

事務局より資料に基づき説明を行った。

(委員) 冊子「なとりの下水道」7ページの公共下水道業務の推移の一般会計繰入金について、令和3年度と4年度で大きな差が生じた経緯をご説明ください。

(事務局) 令和3年度において、閑上地区の災害復旧に係る固定資産の除却費用に対して一般会計の繰入金が計上されていきました。収益的収入・支出をご覧くださいても10億近く差異が生じております。

(委員) 冊子「なとりの下水道」9ページの他市との料金比較について、岩沼市程度まで料金は下げられないものなののでしょうか。(名取市：3,300円 岩沼市：2,948円)

(事務局) 料金設定については、平成18年4月1日より税抜3,000円とし、それ以降は消費税分のみの改定としております。3,000円というのは、総務省で示している企業努力による確保額の基準となっております。また、一般会計からの繰入も財政状況が潤沢ではなく、減額については厳しいという状況です。

(委員) 冊子「なとりの下水道」12ページの施設の維持管理において、主要な幹線の実態調査とありますが、具体的な手法を教えてください。また、ストックマネジメントとはどのような意味でしょうか。

(事務局) 実態調査の方法としては、管渠内にテレビカメラを挿入することで、クラック・腐食・帯水・継ぎ手状況等を調査しています。また、ストックマネジメントの内容については、市内の汚水管渠延長約400km及び汚水施設を全体的に捉え、どのように改築するか優先順位をつける手法としてストックマネジメントを行っております。

(委員) カメラ調査については何年ごとに行っていますか。

(事務局) スtockマネジメント事業の一環としてカメラ調査を行う中で、令和元年に点検計画を策定しており、同年度から令和4年度にかけてカメラ調査を実施しております。その後基本設計、詳細設計を経て管渠の改築工事を令和8年度より行います。以上のサイクルを継続的に行うことがストックマネジメント事業です。

(委員) 冊子「なとりの下水道」1ページの既成市街地雨水対策の計画的な整備の進捗についてお伺いします。また、9ページの他市との料金比較について、名取市の料金設定には下水処理場が無いことが原因という認識ですが間違い不会でしょうか。

(事務局) 既成市街地雨水対策の計画的な整備の進捗については、雨水対策基本計画のシミュレーション業務が令和6年度に完了し、成果品を基に防災安全課がハザードマップを作成し、公表していくところでございます。料金設定については、下水処理場の有無は関係しておらず、20m³あたり3,000円以上でなければ国庫補助金が出ないこともあり、料金を設定しております。

報告第2号「令和7年度事業（案）について」

事務局より資料に基づき説明を行った。

- （委員） 小山地区の雨水対策事業について、館腰承水路への排出流量軽減については、調整池を箱塚グラウンド近辺へ作る予定だったのではないのでしょうか。
- （事務局） 既成市街地雨水対策基本計画において、箱塚グラウンド付近の遊水池計画もありますが、今回の事業は第1中学校サブグラウンドに築造する計画としております。
- （委員） 小山地区の雨水対策事業について、地下式の調整池では勾配の関係上、全ての雨水を排出できないのではないのでしょうか。
- （事務局） 雨水調整池の深さが約5mであり、館腰承水路よりも深い構造となっております。そのため、現在設計照査中ではありますが、ポンプを用いた排出を考えております。
- （会長） 小山地区の雨水対策事業について、ある程度の雨量を予測して調整池を設計していると思うのですが、どれほどの雨量が何時間降ったときに満杯になるのでしょうか。
- （事務局） 調整池の容量は7,500m³であり、10年に1度の大雨（ピーク時に1時間当たり52mmの降雨）が24時間降った際に、丸1日貯留できる容量で設計しております。
- （会長） 一般の方にも分かりやすいような説明ではどうなりますか。
- （事務局） 平成6年9月22日の時よりも冠水が軽減できるよう設計しております。
- （委員） 小山地区の雨水対策事業について、オープンではなく地下式の調整池にした理由を教えてください。
- （事務局） 現状、第1中学校の駐車場等で使用している土地であるため、調整池築造後も土地使用ができるよう、地下式の調整池にしました。
- （委員） 稲刈りの時期には藁の流入による詰まりが考えられますが、対策が必要ではないのでしょうか。
- （事務局） 建設部以外の庁内各関係部とも連携を図り、今後検討していきます。
- （委員） 美田園地区の雨水対策事業について、雨水幹線の築造が含まれておりませんが、雨水幹線については問題ないという事でしょうか。
- （事務局） 雨水管渠については問題無いと捉えております。東日本大震災に伴う地盤沈下による調整池の容量減少と都市化が原因の為、調整池の容量増加を図る事業を進めております。
- （委員） 小山地区と美田園地区の2事業ではどこが異なるのでしょうか。
- （事務局） 美田園調整池は既存の調整池を対象とした整備であり、小山調整池は新設の調整池の築造です。そのため、小山地区の事業では、調整池へ導くための雨水函渠工事も実施します。

(7) その他

下水道建設委員会の構成について

事務局より、下水道建設委員会員の推移について背景を交えた説明を行った。

(事務局) 今後の下水道建設委員会の構成において、各行政区の代表者 11 名と有識者 4 名の計 15 名で、今後の下水道建設委員会を構成していきたいと考えております。現在、条例では 12 名での構成となっており、15 名への改正が必要となっていることから、委員の方々の御意向に沿って進めていきたいと思っております。

(各委員) 賛成します。

埼玉県八潮市の道路陥没事故について

・事務局より、当事故について概要の説明を行った。

(事務局) 名取市内の污水管渠については、東日本大震災時に調査を行っており、令和 2 年度に復旧が完了しています。また、令和元年よりストックマネジメント事業へ着手し、突発的なものを除けば現状破損している管渠は無いと考えられます。

今回、八潮市で発生した崩落事故は口径 4,000mm 以上のコンクリート製の污水管です。名取市における最大口径は、コンクリート製の 1,500mm となり、設置箇所は県道塩釜亘理線の流域接続部になります。また、高館地区においてはダクタイ尔鑄鉄管を使用しており腐食の恐れがあることから、これらの管渠についてはストックマネジメント事業に基づき、継続的に管渠調査を続けていきます。

(7) 閉 会

以上、会議の顛末を記載し、その正当なるためここに署名する。

令和 年 月 日

名取市下水道建設委員会

会 長 _____

署名委員 _____

署名委員 _____